

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

がん患者家族の支援プログラムの開発

研究分担者 大西秀樹 埼玉医科大学国際医療センター
精神腫瘍科 教授
研究協力者 石田真弓 埼玉医科大学国際医療センター
精神腫瘍科 助教

研究要旨（目的）がん患者の家族・遺族は、患者と同様に心理社会的な負荷を受け、支援の対象だがそのプログラムは未開発である。よって、本研究では支援プログラムを開発する。（方法）遺族・医療従事者に聞き取り調査を行い、遺族ケアに必要な因子を抽出し分析。集団精神療法による遺族ケアプログラムを作成し、適切な対象・介入時期を探索。また、周囲からの適切なサポートを提案。（結果）遺族の経時的な気分状態の変化を質問紙調査で把握。また、全国調査により周囲からのサポートの是非を確認。（結語）がん患者遺族の苦悩に対応した支援プログラムの導入に適切な対象・介入時期についてのデータを蓄積する一方で、周囲からのサポートについても提案した。

A. 研究目的

がん患者の家族は、患者と同様に心理社会的な負荷を受け、その程度は患者と同程度かそれ以上といわれている。死別後、遺族が受ける心理社会的および身体的な負荷も大きい。家族・遺族の実情に基づいたケアを考えるため、遺族および医療従事者から聞き取り調査を行い、家族ケアに必要な因子を抽出し分析する。さらに、その結果を踏まえ介入プログラムを作成し、より適切な対象・介入時期について検討する。また、遺族に対する周囲からのサポートについて全国調査を実施し、その結果からサポートを提案する。

B. 研究方法

がん患者遺族として、医学的援助をもとめた者（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科遺族外来を受診した者）を対象に作成した、集団精神療法による遺族ケアプログラムの適切な実施対象・介入時期について、対象者に自記式質問紙への回答を求めることでその変化を経時的に把握する。

遺族外来受診者やその他の遺族らに対する聞き取り調査に基づいて作成した調査用紙を用い、遺族に対する周囲からの具体的なサポートの現状とその是非について全国調査を実施し、その内容から周囲からの適切なサポートを提案する。

（倫理面への配慮）

埼玉医科大学国際医療センターIRBの承認を受け、研究を実施した。

C. 研究結果

遺族外来初診時から経時的に実施された気分状態を中心とした自記式質問紙調査の結果から、初診時は抑うつ気分が非常に高いが、介入が進むにつれて緩やかに改善する可能性が示唆された。

前年度までの研究結果から、遺族の苦悩として抽出された「周囲からの Unhelpful support（役に立たない援助）」が遺族支援を考える際に問題点であることが明らかになった。そこで、遺族が周囲から受けた援助の是非について全国調査を実施した。その結果、興味本位の言葉かけ、よい面を取り上げた言葉かけ、安易な励ましが Unhelpful support として多く提供されている実態が明らかになった。

D. 考察

本研究結果から、医学的援助を求める遺族に対する支援プログラムとして、がん患者特有の苦悩に対応した集団精神療法プログラムの適切な対象・介入時期について気分状態の変化から経時的に検討することができた。また、がん患者遺族に対する Unhelpful support

の実態と、具体的なサポートの是非が明らかになったことにより、社会一般を対象とした啓発活動の必要性とその具体的な方針が見出された。

E. 結論

本研究では、家族ケアの中でも特に遺族へのケアに焦点を当て、その現状の把握、分析、適切な援助の検討、介入の提案、実施を行い、より適切なプログラムを開発した。

また、医療者から提供する援助と並行して、周囲からの援助に対しても検討を加えたことにより、家族支援プログラムとして多くの視点を踏まえることができた。

平成 25 年度の研究結果から、家族・遺族に対する精神医学的側面・社会的側面の両面からの支援の方向性に関する仮説が実証されたと考えられ、今後はこれまでの研究結果と総合して社会への還元を検討する必要がある。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Nakajima N, Onishi H, et al: The evaluation of the relationship between the level of disclosure of cancer in terminally ill patients with cancer and the quality of terminal care in these patients and their families using the Support Team Assessment Schedule. *Am J Hosp Palliat Care*, 30(4), 370-376, 2013

2. 学会発表

1. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al: Psychiatric Disorders of the Bereaved Who Lost Family Members With Cancer: Experiences of Outpatient Services for Bereaved Families in a Cancer Center Hospital - The Third Report. American Psychosocial Oncology Society. 10th Annual Conference. Huntington Beach, California, USA, 2013
2. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al: Group psychotherapy for patients with advanced or recurrent cancer: Preliminary study. International

College of Psychosomatic Medicine (ICPM), 2013

3. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al: Psychiatric disorders and background characteristics of the bereaved seeking medical counseling at a cancer center. 15th International Psycho-Oncology Society, 2013
4. 石田真弓, 大西秀樹, 他: 不機嫌を主症状としたアカシジアの診断と治療について. 第 10 回埼玉サイコオンコロジー研究会, 2013
5. 川田聡, 大西秀樹, 他: 膵がんの治療経過中に亜昏迷状態を呈した 1 例. 第 26 回日本サイコオンコロジー学会総会, 2013
6. 遠山啓亮, 大西秀樹, 他: 『先生、みえないし、きこえない』 ~コミュニケーション手段を失っていった乳がん患者の一例~. 第 26 回日本サイコオンコロジー学会総会, 2013
7. 石田真弓, 大西秀樹, 内富庸介, 他: がん患者遺族への Unhelpful Support -A nationwide survey-. 第 26 回日本サイコオンコロジー学会総会, 2013
8. 石田真弓, 大西秀樹, 内富庸介, 他: がん患者遺族に対する「不用意な言葉かけ」は何か? 全国調査から. 日本心身医学会関東地方会, 2013

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。